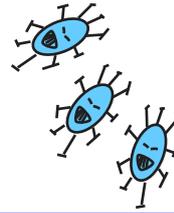
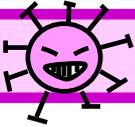


感染症に気をつけよう!

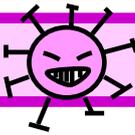
2019年【8月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症**	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
手足口病*	警報	横ばい	6月下旬から警報発令中です。例年の同時期の報告数を上回って推移しています。【'19.7号】
風しん*	多発	横ばい	30~40代の男性を中心に、報告数が多い状態が続いています。【'19.4号】【予防接種】
腸管出血性大腸菌感染症*	多発	増加	7月から報告が増えています。例年、初夏から初秋にかけて多く報告されます。【'17.9号】【ちらし】

今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症



- 病原性大腸菌(O157 など)に汚染された物を口にすることが原因です。
- 食品以外に、患者の便で汚れた物品からも感染します。
- 他の食中毒菌と同様に、加熱や消毒薬により死滅するので、予防のためには **食中毒予防の三原則***を守ることが大事です。



- **菌をつけない!** 手をよく洗いましょう*!
トイレ後、調理前、食事前、下痢をしている子どもや高齢者の排泄物の世話後などに。
- **増やさない!** 買い物から帰ったら、生鮮食品は **すぐに冷蔵庫へ入れましょう!**
- **やっつける!** 食材を **しっかり加熱しましょう!**



- 症状は、全くないものから軽い腹痛や下痢のみで終わるもの、さらには溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳炎といった重い合併症を起こし、時には命に関わるものまで様々です。
- 下痢止め薬の使用など、自分で判断しないで早めに受診してください。



参考ホームページ*:厚生労働省 **:国立感染症研究所

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

